

---

# muv-luv妄想物語

poo

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

muv - 1uv妄想物語

### 【NZコード】

N3585R

### 【作者名】

poo

### 【あらすじ】

珪素生命体の絶滅・・・神による人類の少しばやめの進歩  
果たして人類はBETAを打ち倒し平和を勝ち取れるのか

実は「こんなことがあったのだよ・・・（前書き）

更新は不定期です

実はこんなことがあったのだよ・・・

実はこんなことがあったのだよ・・・

広い広い宇宙のどこかそこにはある珪素生命体がすんでいました。  
しかしあるとも

「おい！そのスイッチを押すな！..」

「へ？」

「――――――あぶるばあつ――――」

突発的な事故で皆さん吹っ飛んでしまいましたとさ・・・。

そして自立的に資源を回収する炭素生命体・・・後に人類によってBETAと名づけられるそれは主がいなくなつたのにも気づかず  
に作業を続けたのです。

それを見ていたのが神様でした。

「いかん！このままでは地球まで来てしまうではないか」  
しかし神様の決まりで直接何かを排除したりする介入はできない  
ので神様は人類の技術力の発展を速めることにしました。

「やるべきことはやつた・・・頑張れよ」

果たして人類は生き残れるのでしょうか？

## バー・ラシア戦線（前書き）

つづけて投稿。この話は原作から大きくそれる予定です

## 「コーラシア戦線

### コーラシア戦線

カシュガルのオリジナルハイヴ落着後戦況は悪化の一途を辿っていた。

「いかん！！ここはもう駄目だ！！ジャッカル3ほかの連中を連れて撤退しろ！！！」

「了解！撤退します」

「先に地獄で待ってるぜ・・・ゆっくり来いよ」

そういうて自爆装置を作動させた。

「隊長！！！」

現在このインド戦線は非常に危険な状態に陥っていた。現在この戦線で活躍している戦術機はタイプ87正式名称八七式戦術機「新月」日本帝国から輸出されている機体だ。安価で格闘戦ではイーグルと互角の性能を示すためにアジアではイーグルか87かと呼ばれるほど活動している。ボバールハイヴのあるインドだつたが、かろうじて今のところインド亜大陸上に踏みとどまっていた。もつとも民間人の多くはすでにオセアニアへと退去していたが・・・しかしこれ以上の防衛は不可能と判断され、国連との共同でのボバールハイヴ攻略作戦「スワラージ作戦」が決行されることになった。

1992年11月6日作戦開始  
軌道降下部隊の主力は準備が完了していた。

「降下準備完了」。これより軌道降下によるハイヴ強襲作戦『オペレーションドレッドノート』を開始する

この部隊は正真正銘の虎の子今世界が保有しているなかで最高峰の戦術機たちだった。

彼らは国連751技術試験運用部隊の第三世代技術試験機。

一番機から「ジャスティスアーク」

「プロトタイプギャラクシー」

「心神」

「試作型次世代殲撃」

が各三機である。そしてこの機体で取れたデータは常に各機の所有国に送られる。

まずは軌道上から無数の多弾頭ミサイルが打ち込まれた。

また、地上では多連装ロケット発射機や沿岸からの支援砲火などによる飽和攻撃を行っていた。すでにハイヴ上空には重金属雲がたちこめていた。いまだ作戦は序盤。これからが本当のハイヴ攻略戦になる。

## 実験機たちの戦い（前書き）

この話は原作とは違つた展開にぐんぐん進みます

## 実験機たちの戦い

実験機たちの戦い

### 『オペレーション・ドレッジノート』

軌道降下によるハイヴ強襲作戦、この作戦では運が良かつたといえることがあった。軌道降下部隊の損傷が皆無ということだ。その降下部隊のなかで一際異彩を放っていたのが「プロトタイプ・ギャラクシー」アメリカの戦略思想を体現したかのような重火力装備をほこるこの機体はもはや戦術機と呼べるかどうか怪しいほどに機体だった。それもそのはず他の国の技術者なら正氣を疑う装備「20mm四連装砲」を搭載しているのだ。

機動力を犠牲にしたこの機体だったが他にも小型ミサイルなどを多数搭載しその鈍重さを補つて余りある破壊力を持っていた。この機体を中心に部隊はハイヴ内に進入していった。近づいてくるBETAを驚異的な格闘性能で撃破するのは日本が送り込んだ「心神」だった。

「いくらやつてもきりが無い……」

「文句いつてる暇があつたら手を動かせ……」

ハイヴ突入から長い時間がたつた。もしかしたら其処までたつていなかのかもしれないが彼らにとつては気の遠くなるような長い時間だった。脱落者が奇跡的に出なかつたものの先はまだ長く、弾薬も燃料も心もとなくなってきた。そのときだった。恐ろしいほど多数のBETAが迫ってきていたのである。

「おい・・・〔冗談だろ」

「これがジヨークだつたら相当そいつはゴーモアに富んだやつだ」

「ここで迎撃つ」

「馬鹿か！？無理に決まつてんだろ！全員大死しておしまいだ！」

「各機種一機離脱しろ。死んでも機体は国に届ける。残る奴は俺以外に誰かいるか？」

「若いのは帰れ。ここから先は俺たちの時間だ」

「しかし！」

「しかしも案山子もねえ！！！」

「そうだぜ年長者の仕事は若者の未来をつなぐことだ。俺たちの分もその機体のデータ役立ててくれよ」

「「「「解」」」

「わーて。バケモノさんよ

「ここから先は通行止めだ

「ここは俺たちの星だ

「俺たちの星から

「「「「「「「出で行ナ——————」」」」」

「

未歸還機十一機中八機

## 怒れる雷

怒れる雷

アメリカではプロトタイプギャラクシーのデータをもとに新たな機体を開発するはづであったが格闘戦性能の低さから頓挫しかけた。しかし、もともと同じコンセプトの重火力機のA-10サンダーボルト？の強化計画に組み込まれることになった。

そして完成した機体がこれだつたぱつと見ではギャラクシーに見えるがその実はかなり異なつていた。この機体の名前は「A-10サンダーボルト？ギャラクシーストライカー」、出力を30%増にしたA-10の機体の上にアーマードユニットと呼ばれる外部武装ユニットを装着した機体であるこのユニット自体にも燃料が積まれており機体の継戦能力を25%増にしている。その火力は過去どの戦術機にも並ぶものはないと言われた。この機体の公開のときに大統領はこう演説した。

「この機体は尊い犠牲の上に成り立つてゐる。我々合衆国をはじめ前線諸国の多くの兵士が無辜の民があの憎きBETAの犠牲となつた。あの醜い化け物どものせいぞれだけの不幸がこの星に広がつたことか！－より書き未来を創るために我々は勝利しなければならない、我々は勝利するのだ！－この機体は全人類の怒りの代弁者である。この機体こそが我々の憤怒の象徴、『怒れる雷』サンダーボルトなのです！最後にもう一度言いたい。我々は勝利する！－」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3585r/>

---

muv-luv妄想物語

2011年7月26日04時39分発行